
シャワー室で

泉みのる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シャワー室で

【Nコード】

N8919C

【作者名】

泉みのる

【あらすじ】

シャワー室に彼女が入ってきて・・・

私がシャワーを浴びていると、裸になった女性が扉を開けて入ってきた。

不意に入ってこられたのでドキツとしたが、裸の女性は彼女であった。

彼女とは大学で友達から紹介されて知り合った。第一印象から好みの女性で無かったのだが、不思議と深い関係になっていた。

「どうしたの。」

と声をかけた。普段はこんなことをしないので、私の声は少しぎこちなかった。

彼女は、少し笑顔を浮かべ私に近づいてきた。そして、そのまま唇を重ねてた。

いつもしているはずなのに、なぜだかいつもと違う感じであった。頭の中で何かが破裂し、熱いものがじんわりと広がっていくのを感じた。全身の血管が拡張し体温が上昇していく。興奮しているのはつきりとわかる。

快感に身を浸し、酔いがまわる。

彼女が唇をそつと離す。

もつとしていたかったが、私は、すでに頭が熱くなって何も考えることができなくなっていた。そのままボーっとした状態で彼女を見ていると、どうにかなりそうだった。

小さめの口、少しつりあがった目、すつととおった鼻、きれいに整えられた眉。

女性特有の丸みがあり、華奢な体。流れるような髪。

彼女を構成するその一つ一つが美しく、そしていとおしく感じる。いっそ食べてしまいたい。

彼女のすべてを取り込んで自分の中にしまいこんでしまいたい欲求が溢れる。

そして、私は彼女の首に手を回しキスをした。
これが、私から求めた最初のキスだった。

（後書き）

最初なので、とりあえずやってみただけです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8919c/>

シャワー室で

2010年11月27日16時03分発行